

こども・若者 Vol.3 ミライNEWS



こども・若者のミライにつなげる条例をみんなで考える部会

川西市は、こどもが笑顔になる、こどもが幸せになるために、こどもたちが自分の考えや意見を表明できる機会を保障するため、「(仮称)こども参加条例」の制定をめざしています。
大人だけで考えてつくるのではなく、当事者であるこども・若者が自分たちの意見を伝えながら、まちづくりに参加する権利を保障するためのルールについての話し合いを通じて、より良い条例づくりを進めています。

8月11日(日)に第3回を開催！！
「市役所をもっと身近に」をテーマにおとなと一緒に
意見交換を行いました！



第3回では、約30人のこども・若者が参加しました。

また、今回は(仮称)こども参加条例検討部会のおとな委員が各グループのメンバーの一員として参加しました。

初対面のおとなの人がいるため、これまでと比べると参加しているこども・若者のみなさんは少し緊張気味でしたが、ファシリテーターの渡邊さんより、「緊張をほぐしてお互いのことを知ってもらうために、エピソードトークをやります！」と声掛けがあり、「やったー」や「るるん」などさまざまな気持ちが書かれたカードをくじ引きのように引き、そのカードに書いてある気持ちに最近なったことやこれまでのできごとを思い出したりして、それぞれのエピソードを話しました。

話が終わった後には、「その気持ちわかる！」や「同じようなことが最近私もあった～」などの声が多くグループから出ていました。

「市役所をもっと身近に」感じてもらうためには？

今回は「市役所をもっと身近に」をテーマに各グループで意見交換をしました。

初めに、渡邊さんより「市役所がつくっている子ども・若者未来計画ってみんな知ってるかな？」という問いかけがあり、市が実施しているこどもや子育て、若者に関わる取り組みについて説明がありました。その後、現在検討している条例の内容についても説明があり、計画や条例の内容、市役所を身近に感じるためにどうすればいいのかなど、さまざまなことについて意見交換をしました。



「市役所が何をしているかわからない」、「そもそも市役所というものが頭
にない」など、市役所はこども・若者にとって身近な場所とはかけ離れている
ものということが、各グループでの意見交換で浮き彫りとなりました。
参加者からは「私たちが市役所に行くのではなく、市役所の人が学校に
来るなどしてくれれば身近に感じるのではないか」、「広報誌のデザインを
カラフルにするなどしてこどもや若者が読みやすくしてはどうか」、「アプリ
やSNSをうまく使ってPRしたらみんな見るんじゃないか」などいろんな
意見が出ました。

また、今回参加したおとな委員は、「少しテーマが難しいところもあったと
思うが、当事者であるこどもや若者の想いや考えを直接聞くことができ
よかった」、「ふだんの生活や学校のことでこども・若者のみなさんは
それぞれ意見を持っており、おとなが耳を傾けることが大事。今回参加し
たことを条例の検討に活かしていきたい」などと話していました。

